



## シノドスに参加した夫婦

### アルベルト神父

10月4日に開幕したシノドス（世界代表司教会議）は25日に閉会しました。3週間の間で司教様たちは、「教会と現代世界における家庭の召命と使命」というテーマを取り上げました。

家庭を脅かして破壊しようとしている現代のような時代はかつてありませんでした。

家庭は人類に関わっていて、その将来に強いつながりがあります。ですから司教様たちはこのテーマについて今年のシノドスと去年の臨時シノドスを奉げました。

多くのマス・メディアは、離婚再婚者への聖体拝領と同性婚についての議論だけを強調したけれど、シノドスの最終作業日で採決された94項目の本文を読むといろいろな問題に焦点が当てられています。女性、男性、子ども、若者、高齢者、それぞれの役割、若者の結婚準備、受胎から自然の死に至るまでの命の保護など…

そして結婚生活を失敗した方、そして再婚した方に対する配慮を促し説くのは大切なこと、その方々も神のいつくしみに抱き締められたことをどのように感じさせるか、また、家庭の成長と歩みをどのように寄り添って支えるか、ということを改めて分かち合っただけで伝えられました。

特にシノドス会期中の10月18日に教皇フランシスはバチカンのサンピエトロ広場で行われ

た列聖式ミサの中で4人を聖人として宣言されました。その4人の中の2人は夫婦として一緒に列聖されました。幼いイエスの聖テレジアの両親です。

父は聖ルイ・マルタン（1823—1894）。

母は聖ズリー・ゲラン・マルタン（1831—1877）。

2人は1858年に結婚して9人の子どもが生まれました。そのうち4人は幼いうちに亡くなりました。子どもを失う悲しみは絶望にはならず、かえって、その試練を通して神への信仰がもっと深められ、彼らの支えとなっていました。

3番目の子どもが亡くなった直後に書かれた手紙にこう書いています：「神様の手に全部を任せたいほうが良い。そして、静かに神様のみ心に心をオープンにしながらか、これから起こるさまざまな出来事を待ちます」

夫婦として列聖されたのはマルタン夫婦が史上初めてです。この列聖式によって教会は修道生活だけではなくて、結婚生活も聖性への道であることを明らかに見せてくださいました。

現代は家庭に関して難しい時代ですので、マルタン夫婦こそが神様が模範として与えてくださった大事な賜物だと思います。

マルタン夫婦の日々の生活は、神様から湧き出る希望の中にお互いに助け合いながら子どもたちを育て、単純で小さなことにも喜びを見出

すことのできる普通の生活でした。マルタン家の中では永遠の命についての話がよくされました。子どもたちの教育に関して、マルタン夫婦の一番大事にしたことは常に天に向かって、この地上のことに執着を持たないことです。

天の希望は本当にマルタン家の雰囲気だと聖テレジアのお姉さんであるセリーヌが自分の両親を思い出しながら言いました。

幼いイエスの聖テレジアの「小道」はそんな両親の影響を受けたのではないのでしょうか。

マルタン夫婦の取り次ぎによって、難病から癒された幼児の両親は奇跡をもらったことをとても喜んで感謝しました。しかし特別な出来事は、それだけで信仰を成長させるには足りないということにも気が付きました。

そして奇跡で癒された幼児の両親は日常生活を愛することを、幸せになるために明日を待たないということをマルタン夫婦から学びました。

マルタン家は毎日の小さなことであっても、どんな時も神様を一番に考える家でした。そして祈りはミサに参加し、ロザリオを唱えることですが、それだけではなく、どんな瞬間でも神様にささげることだということも学びました。

12月に入ってクリスマスが近づきます。

クリスマスの季節で聖家族祝日も祝います。

聖マルタン夫婦は聖家族にならうことが出来る本当の証しです。



## 猪口大記神父

ローマでの生活の様子を書いてほしいとのご依頼をいただきました……が、この文章を書いている現在、なぜか一時帰国しております。

さて、私は今年度の4月末よりローマに留学しております。何のためかと申しますと、3年間かけて教会法の『リチェンツァ』という学位を取るためです。一体何の役に立つのか疑問をお持ちの方も多いようですが、法務、つまり手続きや審理といったことをするために、この学位が資格として必要というわけです。しかし実は、神学院で一番苦手だった科目が、教会法でした。さあ、一体どうなるのでしょうか。

さて、今までローマで何をしていたか、少し簡単にまとめてみましょう。

### 1 ローマの語学学校で学ぶ

4月27日から6月28日まで

まず、ローマに到着後イタリア語を2か月間、語学学校にて学びました。イタリア語は全く初めてでしたが、幸いなことに神学生時代、教会ラテン語を学習していましたから雰囲気は掴めたため、一週間で初級を終え、以後、概ねヨーロッパと南米諸国出身者と共に学習しました。ラテン語が役に立つ場面はあまり多くありませんが、こういう時には役に立ちます。



アパートですが、高校のラテン語教師を引退した方が語学学校に貸していて、私が住んでいる時は3人でシェアしていました。なお、ヨーロッパでは、学生が3カ月とか1年とか長期休暇を取って語学をしながら外国生活をするのがよくあります。短期で来ているロシア人の女子高校生や、3カ月の予定で来ているスイスの銀行員等の人もいました。このアパート暮らしでは勉強の時間が重要なので、ほぼ外食をしていました。一番困ったのは洗濯機と物干し場が無いことで、手洗いかコインランドリーに行くしかなく、かなりの費用が洗濯に消えていきました。

また授業時間外に、語学学校の主催でローマ市内の散策や、文化・歴史・古典文学・方言といったコースもあり、他の学生との交流もあり(時に夜通し)とても楽しい日々でした。

## 2 ウルビーノでの語学

7月7日から9月26日まで

イタリアでの受け入れ先である福音宣教省の主催で、ラファエロの故郷であるウルビーノという、旧市街全体が世界遺産に指定されている小さな街で再び語学を行いました。当地の大学入学のために必要な語学コースに、少し教会関係の内容を追加し短期間に集中して学ぶというものでしたが、ほぼローマで行った内容でしたので、近隣の史跡等、空いている時間に巡る生活でした。

住まいは、大学の寮の様な「コレジオ」と呼ばれる場所で、他の学生等と共に生活しました。イタリアでは夏のバカンスが長く、多くの人はどこか別の地に行くのですが、私達のグループだけでも司祭とシスター合わせて100人以上いましたから、それなりに賑やかな生活でした。

## 3 ローマに帰って大学

9月末より再びローマに移りました。今度は福音宣教省の管轄下の「コレジオ・サン・パオロ」という宣教地司祭のための奨学金をもらって留学している司祭のための寮での生活です。司祭ばかり200人程で生活をしています。基本的な生活の様子は、大学に通う以外は神学校とほぼ同じです。気になる方は、どうぞ、広島教区の神学生にお聞きになってみてください。ちなみにコレジオには基本的にイタリア人はいません。ほとんどがアジア・アフリカ諸国からの留学司祭です。実は私の通うウルバニアナ大学もほぼそうなので、ほとんどイタリアに住んでいる気がしません。

大学の授業は、基本的にイタリア語です。特に教会法学部はイタリア語とラテン語の能力が求められるのだそうです。その代り、他の語学がないということで、語学嫌いの私にはとてもありがたい話です。

以上、取り留めないですが、イタリアでの生活の概要です。その他の事はまたの機会に



11月29日に、新しく聖体授与の臨時の奉仕者に  
任命された方々を紹介します

マリア・クララ KIさん

神父様からお電話をいただいた時「こんな重荷をとでも…」と思いながらも「はい、お受けします」と答えていました。帰天した夫は20年の信仰生活で主日の礼拝(プロテスタント)・ミサは欠かさない人でした。難病の症状が悪化し車椅子になっても…。それが2013年7月初め、ミサに行く身仕度中に「もう行けない…」と言い動けなくなりました。後藤神父様が「大丈夫、ご聖体持っていくから」と。その日から召される12月31日の2日前まで神父様、奉仕者の方によって度々聖体拝領ができたのです。愛のみ心であるご聖体のイエス様をお迎えする日はワクワクしながらローソクをつけ二人でロザリオを祈りながら待ちました。全く動けない夫は「我が家にイエス様が…こんな自分に…」と大きな恵みに感謝と喜びの涙を流していました。この度このご恩に報いたいとの思いで、この愛の奉仕をさせていただくつもりであります。どうぞお祈りください。

テレジア NMさん

この度、ヴィタリ神父様より聖体授与の臨時の奉仕者の推薦をお受けした時、私はお断りした方が良いのではないかと思いました。養成講座の基本事項の中には、奉仕者は福音的な生き方に適していること、そして、信者から好感を持って迎えられる人物であること等があり、私とはずいぶんかけ離れていると思ったからです。しかし、講座を受ける中で、神様に呼びかけられたのだから、それに答えれば良いのではと思えるようになりました。「強い信仰を身につけてからと拒み続けるのではなく、不安な心を抱きながらも祈りつつ歩みだしましょう」の言葉に励まされて、できることから少しずつやらせて頂こうと思っています。よろしくお願いします。



編集後記

主日のミサでのこと、何気なくMさんの隣に座りました。お隣には、Mさんのお友達家族が1年前に帰天されたお母様の意向ミサのため一緒でした。紹介されて顔を見たら中学時代の同級生ではないですか。その同級生は未信者ですが、神様に引き合わせて頂いた事に驚きと感謝で一杯です。(か)

退任

「感謝のうちに」

マリア MSさん

少し遠方のお二人に訪問の約束をしていました。お一人目の方がご聖体を拝領された後、これからお訪ねする方のご聖体をお持ちしていない事に気付いたんです。待っていらっしゃるのにとすると本当に申し訳なくすぐ電話でお詫びを申し上げたところ、優しく許して下さい「許しの秘跡も受けたいのよね」と。その言葉に救われ、神父様にお願いをし、次の日ご聖体と許しの秘跡を受けられました。神様は私の失敗を大きなお恵みに変えて下さったのです。病床におられた方の訪問では、苦しい息遣いの中で微笑んで迎えて下さり、どんなにご聖体を待ち望んでおられたことかと、その方の深い信仰にいつも私の心が浄められた愛の深さを学びました。あの方、この方、すでにお見送りした方、ご縁を頂いた方々の重く豊かな人生の一端に主と共に触れさせて頂いた事に深く感謝しております。主のお導きと皆様のお祈りで支えて頂いた4年間でした。本当に有難うございました。